

電子コミックトレーラーの作成手法の検討

A study on creation method for e-comic trailers

野口 多紀
Taki NOGUCHI

渡辺 裕
Hiroshi WATANABE

早稲田大学基幹理工学部情報理工学科
School of Fundamental Science and Engineering, Waseda University

1. まえがき

近年、タブレット端末の利用により電子書籍、電子コミック市場は拡大しており、その収益モデルも多様化している。しかし、ユーザーが電子コミックを「試し読み」できるのは巻頭数十ページに限定される場合が多い。本稿では、映画のトレーラーやドラマの次回予告のような、よりユーザーに対して宣伝効果の高い電子コミックトレーラーの作成手法について検討する。

2. 要約とトレーラー作成

映画のトレーラーではジャンルによってあらすじや見どころの見せ方といった重要度が異なる。従って、映画要約手法をそのまま電子コミックのトレーラー作成に適用するのは難しい。本稿で扱う“シリーズのあるコミック”では一番の見所となる場面は次巻に繋げる形で描かれていることが多い。従って、各巻でのストーリーの本筋を見出して、要約することによって、トレーラーを作成できると考える。

3. 提案手法

映画要約のために提案されたロールコミュニティモデルを利用する。このモデルでは、同じ時間帯、場所での一場面をシーンと定義し、各シーンの登場人物(以下、Role)の集合をロールコミュニティ(RC)と呼ぶ[2]。同じRoleを要素として持つRCはユニークロールコミュニティ(URC)としてまとめる。更に、あるURCが他のURCの部分集合になる場合、前者は後者の親となり、子となるURCが多いほど、親であるURCに含まれるRoleで構成された関係は頻出度が高く、ストーリーにとっても重要度の高い関係性をもつものとする。また、親URCよりも前出の子URCの数のみに重みがあり、後出の子URCには重みがない。どちらも含む場合は前出の子URCの数から、後出の子URCの数を引いた値を重みとして付与する。与えた重みに比例させて、URCに応じたシーンにページ数を割り振り、トレーラーを作成する。

4. 実験

前項で先述した手法を用いて、“アオハライド①[3]”のトレーラー作成、評価を行った。分けられた26個のRCからURCを作り、更に関連したURCをまとめ、重みをつけた結果を表1に示す。ここでa~kはそれぞれRoleを示したものとする。また、ページ数の異なるトレーラーを5パターン作成し、内容理解度、関心度、購読意欲度の3項目について50人を対象に被験者実験を行った。

その結果を表2示す。表2より、ページ数と内容理解度の高さは、購読意欲と比例しないこと、少ないページ数でも読者の関心は得られることなどがわかった。

表1. アオハライド①のURC分析結果

URC	Role	子URC	重み
urc1	abcd	2,3,4	0
urc2	ab	3	0
urc3	a	-	0
urc4	ac	3	1
urc5	aef	3,7	0
urc6	aeg	3	1
urc7	af	3	1
urc8	aegh	3,6	2
urc9	abi	2,3	2
urc10	aj	3	1
urc11	abj	2,3,10,13	2
urc12	hk	-	0
urc13	bj	-	0
urc14	abfhk	2,3,7	3

表2. アオハライド①のトレーラー評価結果(人)

	10P	20P	30P	40P	50P
内容理解度	0	2	26	18	4
関心度	2	17	28	2	1
購読意欲度	4	17	21	6	2

5. おわりに

コミックにおいても映画要約と同様の手法で、登場人物の関係性とその頻出度によってストーリーの本筋を見出すことができ、かつ、従来の「試し読み」よりも少ないページ数で理解しやすいトレーラー作成が可能であることがわかった。

謝辞 本研究の一部は、JSPS 科研費 25330137 の助成を受けたものです。

6. 参考文献

- [1]インプレス総合研究所，“電子書籍ビジネス調査報告書2015”，2015
- [2]Chia-Ming Tsai, Li-Wei Kang, “Scene-Based Movie Summarization Via Role-Community Networks”, IEEE transactions on circuits and system for video technology, vol.23, No.11, November 2013
- [3]咲坂伊緒，“アオハライド①”，集英社，2011